

西藏の時局ニ就テ

揚子江一帯、其上游四川に至る迄、現今將來とも本邦の貿易上最も重要な地トシテ着目せらるるに而テ西藏、揚子江水源形勝地トシテ印度に接攘ス。既に印度に根柢ヲ占ムル英ハ印度ヲ根柢地トシテ東西北ニ地ヲ開キ以テ時機ヲ窺ヒ漸次南部亞細亞一國ヲ其版圖トスルニ欲ス。英國博士ニシテ印度ニ奉職シ比馬刺亞山脈沿地方ヲ旅行シテ終ニ西藏ノ事情ニ直覺充ツルハ數年前其著書ニ於テ時機ヲ至ラハ西藏者、源流域ヲ占領スル其必要ナルヲ説キ、セシカニ至リ今回事業トシテ若輩有リ、同博書其他諸書間ニ西者多ク亦有リ揚子江流域ニ至リ、不割據地ト稱揚スルニ此言亦輿論ノ端ヲ示スルニ如シ。今固印度太守カカリン十餘隻ヲ軍艦ヲ守リ西ニテ波斯、亞拉比里右岸ノ

會長歴訪慰問トシ赴クト同姓ヨシケルズバト太佐ハ東シテ要路ニ進軍スル其経路方面ノ廣大ナルト其意氣ノ壯大ニ推スルニヤナリ

英國方面ノ談判委員ハヨシケルズバト大佐及西金民政官ホアイト氏ニシテ西者方ヨリ駐英大使及在英陸ノ重要官西藏官吏雲南程閣、佛人ハア氏等ナリ當初雙方委員カニハ概シテ會合浦高ノ豫定ナリシ駐藏大使人事ニ在リ曠日待久来リヤリカ附近ガ民ヲ招集シテ概板セトスル状況ナリシリ以テ談判委員等ト一端該地ヲ退却シ更ニ道ヲ持シテ自喇嘛ヲ踏ミテヤ青碑流域ヲ占領シマカタル大佐ハ別ニ二千餘ノ遠征軍ヲ率ヒ出兵及支那兵ヲ概板セシテ容易ニ帕里城ヲ占有シ今ヤ斥候ヲ出シテ前途ヲ搜探シ將ニ江發城ニ進シ談判ヲ開始セトス、既に江發ニ進スル状況ヲ察シ控陸ニ進スルヲ知

奇ラス何カレハ此所毒カカラ雲山外水山嶺、狹隘及藏
 河渡津、稍ヤ防守スル地アリト昂然無備ニ爲キ西花高原
 ハ精銳ニシテアラシカ無人ノ畛域ヲ横行スルカ如クナリシ
 多東花情リ直達察ス英國ハ此間ノ消息ニ通シ滿州
 事件多ク事ハ世所共ニ大膽ノ舉ニ先ニ事々知ルカラス
 西金西藏國境守備ニ任ニ在ニ某英國大尉曰ク我ニ大隊
 兵アラシカ然ラ西花ヲ征服シ得ニト揚言セシハ既ニ數年前
 ニ存リ安穩守地リ踏査シ果ニテ其言ノ全空言ニテアラザ
 フ知リ
 憶フニ滿州事件ト多事ト學際露ハ西花ハ出兵スル暇アリ
 其ノシ清國ノ現状ハ此意他ニ出兵スル困難ナルヲセシハ
 トテ喇嘛群集カ平生ノ不行蹟ヲ有ス甚ダ爲晝夜眠ラズ
 恐敵退散ノ祈禱ヲ捧ルニ素ヲ効顯アツト人思ヒス然
 ラニ如左ノ件々ニ注意スル要ス
 一西花ノ華ノ自由行者ノ放任ニテ其名ハ併有ラズシテ恰モ
 所謂ニ西金西花條約トナシテ其意ハ西金ノ政權高權
 實權道路路權ヲ旅行者ノ保護權郵電管運權等ヲ掌
 握シ他國ノ方來往貿易等ニ不便ナル條約ヲ訂結セザル
 二著目ニシテ
 二著目ニ不得止ム支那リシテ吾國ニ西藏ヲ公開シニ三重要ノ
 市場ヲ開キ各國人ノ來往貿易ヲ許サシムルナリ、然ラ
 ン則チ一國ニシテ專ラシク優トリ、他ノ境內未開地ニシテ如ク盜
 賊出沒、箇處通過、過ル者ト別ニ之カ措置及便宜處
 過ル方法ヲ設クニシ
 三清國ヨリ米佛智其他各國ニ交渉セシメテ此際西花ヲ
 公開シ清國ト支那國如何ナル理由ヲ以テ元各國ニ言明

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

附圖より見るに印度より進路道路高低の概観より之を推して
測量より得たる地形を以て之を定めて踏査後所感より唯其の要
點を以て印度平原の概況を如何に西境高原の高度地位に
比して之を比較するに當るに過すも其の精確に記されり
低く免れざるに注意

熱帯印度平原の概況は在るに西境高原の
里城より將に江蘇の概況を以て之を比較するに當るに過すも其の精確に記されり
低く免れざるに注意

印度首府噶爾格達より西境高原の概況を以て之を比較するに當るに過すも其の精確に記されり
低く免れざるに注意

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

印度より西境に進行する道路状況
英露紛争に關する私見 附圖表

証明書ヲ差出セル通過處ニ容易ナリ是ヲ陸嶼北馬拉亞山
 路ヲ疾馳空行セシ處彼海ニ英人カ固執セル茶園及新ニ
 開墾シワル園圃ヲ認ムル此ニ散見スル種ハ西金尼保爾西
 藏支那印度英吉利其他ノ諸州トス、將ニ獨吉嶺ニ着セルトス
 前ノ停車場アルモラニ至ルハ西藏人ト同風俗ヲシテ
 英政府ノ下ニ雇使セラレ、要金ヲ集リ支那ノ或ハ西藏人ト對シテハ
 西藏語ニテキヨランソバインセマセ(汝ハ商人ナリヤ否ヤ)ナドト尋
 問ス若シテ對シテセガランスソバイン(我等ハ商人ナリ)杯ト明白ニ答
 へ者ハ通過自ラ容易ナリトス、此他英政府ノ下ニ雇使セラレ、尼
 保爾ノ道直ニシテ獨吉嶺ノ官立英語學校ヲ卒業シテ英
 語ヲ用ス者等モ亦來テ駁查リ急ラス是ノ所謂(西金西
 藏條約ニ依リ印度政府ハ西金國內旅行ヲ自由ニ取締ルノ權
 カ有テガ、先年一蒙古人ハ露國ノ内命ヲ受テ此地ヲ通過シテ
 西藏ニ入ラントセシホ人所持ノ書類及露國製ノ短銃等ヲ露語
 ニ對シ得ルノ等ニ就キ明白トナレリ爾來特ニ支那人ハ西藏行ヲ嚴重
 ニ取締ルニ至ルルニ至ラシ支那裝ヲ爲セシ輝一行ハ死審査セラレ且
 ツ寫真機ヲ擧影セシキリ其用心如斯、獨吉嶺ハ印度ノ避暑地ニシ
 テ高業カ盛ナラズトセズ提テ自陸附近沃人種ノ集合地トナリ蓋シ
 人類學ニ志ス者ニハ最モ有益ノ地トス政府ハ其ニ尼保爾人ノ雇
 フテ兵トナシ訓練急ラス是ニ尼國人ハ此也一帯ニ在テ長勇壯ナル種
 トシテ普々知悉セラルル故ナリ獨吉嶺、東南ニ當リ廣大ナル奇那樹園
 アリ新製造法ニ依リ廉價ニ奇那樹ヲ製出シ此熱帶地方ニ於テ
 必要ナル解熱藥ヲ供給ヲ充セリ
 獨吉嶺ヲ嚆倫綱ニ至ル、獨吉嶺ヲ嚆倫綱ニ至ルハ東行
 シテ山下リテスス河畔ニ出テ酷烈ノ氣候ト當ラズ大鐵橋ヲ渡リ更ニ山
 ヲ登リ嚆倫綱ニ着テ普通ニ百行程ニシテ之ヲ公道トス他ニ捷徑アリ

此道路稍ヤ峻悪ナリト云フ此巴秋冬ノ候モ木葉變色スル緑翠
人目ヲ慰ム然モ野菓麥稗蕎麥芭蕉蜜柑橘ノ類ハ
産額饒多クナリト云、鳥獸内亦缺シカラズ噶倫綱ハ人家約千
五六十戸印度及西藏ノ貿易ノ地トシテ西藏羊毛一手賣賣業
トシテ英獨ノ二商ノ其地ハ商業ハ少ク多ク行テ印度及
西洋産衣服地類ノ多ク印度商人ノ依テ販賣セラルル毎週約
三次市ヲ開キ近隣ノ村落有無相適スル便ニ供セリ、小教士
民文駐屯シ學校寺院病院ヲ設ケテ又殖民俱樂部及遊
暑屋等ノ公立建物ナリ、然モ青年士人ノ優待シテ各班ノ公
子頻リ簡易測量術ヲ教テ善シ他日西藏其他隣邦未詳
地ノ放テ活用セト欲スル運輸ニテモ當テ牛車運搬會社
ニテ其ノ牛車ヲ借用シテリリリ停車場ト間ニ於テ貨物運送
ヲ営メリ道路ハ廣大ニテ修繕行爲ナリ、然レモ此運送路ノ暑
氣酷烈頗ル不便瘴地ト稱スル、西金士ハ概シテ喇嘛教ヲ
信シ住家傍ニ白布ノ經文ヲ印ス懺數流差クハ數十流ヲ連
植スノ風習アリ旅者若シ噶倫綱ニ至リ初テ見ルハ奇怪瘴
氣ヲ覺スルト是多クハ西金ノ習俗ニシテ西巷内ニ至リ却テ以樹
懶ノ風習ナリ

噶倫綱ヨリ瑤瑪ニ至ル、此ヨリ行程ハ普通ニ日間ニシテ差異
アルモ北洞、村達巴、林塘、巴塘鎮、那塘、瑤瑪等宿泊、
順序トス、村達巴又ラツクト稱シ郵便電信局アリ是ヲ北方
向テ岐路アリ西金玉ノ旧宮殿及其旁ニカント城ヲ築キ西藏
ニ皆屬セシ西金玉ハ現今英兵ノ監視セラレテカント城内ニ住マ
遣務委員ヨリカント大佐等カ當初ニ西務委員ト會合地ト
定メテ干煨城、毛尼ハ此地ヲ站ト正北ニ必行セリ、其地
ルナリ村達巴ハ他ニ比シ暑氣甚敷地ナリト云、村達巴ヨリ林塘

之其間或ハ林間ヲ行キ或ハ溪流と沿ッテ進ム時ハ山猿ノ啼鳴ヲ
 聞キ又樹上ニ燕戯スル鳥ノ音ノ響ク樹梢巖隙ヲ無シ木蓮
 ハ諸石ニ咲乱テ花雲と似テ此地方ヲ蘭及木蓮ノ郷里と稱
 ス其地ニアラスカチ、巴塘鎮ニハ雲行愈峻ミテ遂ニ龍洞
 山嶺ニ至ル數歩ニ休ル此難路ニ據リテカウ英兵ノ數倍元ノ西
 藏軍ハ遂ニ障スル然ラスレテ退却シ英兵進テ哨利峰ヲ躡春
 碑原野ニ進入セシムルハ十餘年高ノ事ナリ爾後近年ニ巴塘
 英兵駐屯セリ當時純念トシテ英兵ノ墳墓數基存存ヤ那
 塘地ハ斷々高ク草木稀少ニシテ空氣稀薄ナリ即塘白雲末ノ消
 氷ルニ南下半日行程ノ巴塘鎮ニハ各種ノ野菜充分ニ生存ス
 哨利峰ハ拔海二万四千餘呎ノ標高ヲ有ス故ニ初集ル者ハ空氣稀
 薄ト爲メニ頭痛ス此峰ノ頂上ヨリ各高山上ニ架空鐵索線ヲ
 設ケ貨物ノ運搬ニ資セシムル英人ノ計劃アリ哨利峰ヲ西藏
 方面ニ下ル松林ノ古森林アリ之ヲ出テハ亞東園アリ之ヲ後務目曰ハ
 アトアトノ管下ニ屬ス此後園ニテハ年來銃器彈藥刀劍類
 ノ輸入ヲ一切嚴禁シテ西藏人ノ爪牙ヲ斷テリ事極秘ニ屬ス
 此後園園主任テ表面ハ後務ニ屬スル者ヲ英本國ヨリ招來
 セリトモテ内實ハ西藏事情ヲ探知セシムルヲ傳教師トシテ
 更トテ豫メ西藏事情ヲ探知セシムルヲ傳教師トシテ
 之ヲ以テ年々數十金ヲ擲テ此地ニ廣大ナル地ヲ以テ借用
 シ且ツ曰ク吾レ借地者トモテ中將兼テ授テ地代及家賃
 取立者トナシトシテ漢婦人ノ風ニ著ル方此春碑流域ニ占領ス
 テ穩カセシ者ノ如シ、亞東園門ハ精西園門ニ表懸リ據ル所
 其名ノ多ク以テ守備ノ家ハ但進園塔瑪寺地ハ人家三三
 十戸ニ過キサル家屋ノ構造何レモ堅牢度大具彫刻並
 ハ採色ヲ施シ西金ノ小扉掛カスルニ似セリ氣候ハ姑ニ寒

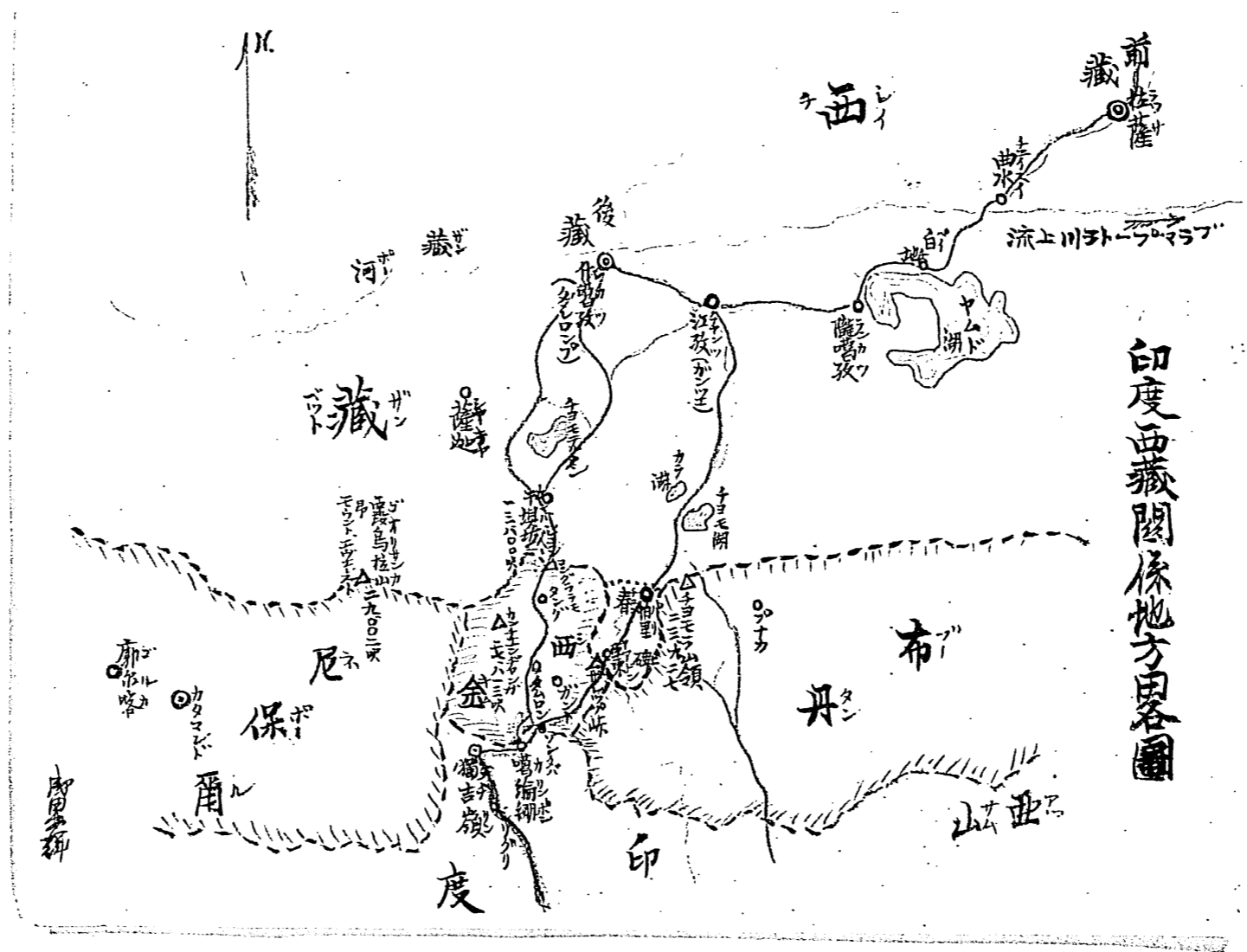
強平ノ嫌アレバ先ツ溫和ニシテ地味ハ豊饒住民ハ温順ニシテ
 統禦ニ易シ碑碑塔塔ハ支那衙門ニテ一ツ軍糧府ニテ
 外委衙門トス軍糧府又撫唐府人知府羅香霖氏
 其任ニ當リ亞東嶺監督ヲ兼テ十餘年前英兵以此地
 方ニ進メ元ヤ支那官衙ト支那國旗ヲ翻々タルヲ見テ若シ
 強テ内地ニ進ムルニ志アリ支那政府ト隣リ生セシムルニ志
 却ルヲ然レバ其面ハ多ク多ク女モスマグドナルト古佐ハ約平
 卒ト支那人及西人ノ抵抗ナラシメテ前進セリ
 珞瑪ヲ怕里ニ至テ 昔直日行程ニシテ連日得レテ旅者大抵
 珞瑪ヲ平日行程ノ格林塔ニ於テ一泊シ翌日格林明怕里ニ至
 行ス旅者珞瑪ヲ穿テ碑碑塔ヲ過キ春碑ニ出ワレ西金玉輝
 暑ノ家屋アリ塗金擬寶子ヲ戴テ粗造ナル建以築物
 ノ外人家數個アリ過キス以テ所々ニ三三小村落ヲ經由レ溪流
 ニ右ツテ右折レ狹隘ニアル松檜繁茂ス隘底要害ノ地ニ
 関門アリ是レ靖西内關ニシテ支那兵二營約三百餘人駐
 屯セリ其兵ハ各地ニ配布スルヲ以テ常駐ノ兵ハ二百名
 ニ足ラス統領アリ之ヲ管ス此地ニ格ニ格林塔アリ家屋
 ノ構造亦堅固ナリ西藏尖者ナリ茲ニ雅居者格林塔
 後方怕里川ノ全川傾斜モ瀑布トナリ奔流ス磨房
 即チ製粉小屋屋兩岸ニ散在ス英人此地ヲ右領其他
 年此水カク活用シテ製粉モ織物其他ノ原動力ニ用メ
 一ニ此地ノ風光頗ル佳美ナリ是ヲ以テ行旅者多ク後里ナラシメテ
 周圍約三里餘大山間ノ平地ナリ春夏ハ湖ニシテ秋ニハ水乾
 燥シ寒ニシテ牧場トナリ當ホ怕里川ニ沿フテ峽隘樹林ナリ
 進行ニ遠ニ無木ノ無木ノ高涼ト出テ四時白雪ニ覆テ珠
 美松ハ鏡ノ遙望シ嶺下ノ廣大ナル高原中ニハ怕里城ニ

産す城構、且取高たて、五層構、ミテ展望四方、遠く得て
遠く遠く地、怕里城ヲ認む、漢口先、以廣原、先日、寫シテ
安詳カ寫真、存、怕里ヲ東、布丹ニ至リ、西、カ、出ル
道路アリトス

獨吉嶺、多、怕里ニ至ル途中、若シ傳世、サレハ、約九日ニテ
達シ得、然レハ、曹備、綏、瑪、等ノ地ニ在リ、馬、取、換、及
官、驗、直、等ノ為、候、日、滞、在、リ、要、ス

案、悉ク、今、回、英、ノ、遠、征、軍、ノ、將、ニ、テ、西、東、内、閣、ノ、支、加、及、西、港
兵、ノ、直、電、モ、接、抗、セ、テ、道、過、カ、ミ、安、全、ニ、怕、里、城、ニ、至、リ、
シ、ル、如、シ、是、ヲ、目、的、地、カ、江、及、ニ、至、ル、ハ、道、路、平、坦、ニ、テ
樹、木、ノ、茂、カ、至、リ、遮、蔽、ス、ル、ト、モ、然、レ、ハ、道、狭、隘、間、ヲ、經、ル
所、多、シ、西、王、世、臣、東、怕、里、間、ニ、如、ク、要、害、ナ、ル、コ、ト、若、シ、英
軍、ノ、進、ム、ヲ、防、遏、セ、ル、ハ、故、ク、英、軍、怕、里、ニ、遠、カ、ル、以、前

二 控テ為サレ可ラサレシモ然ルノ方カリシハ無事江政ニ進入シ得
 ルヲ知ルコトナリ英軍ニシテ若シ江政ニ進入シ得タリトセカ控薩
 三 薩大元カ誰カ能ク之ヲ拒止スル者アラス只江路ト薩境ノ
 四 間ニ控カヨク雲山ノ峻隘ヲ通シ及藏河ヲ横断スルノ期
 五 函難尤モ英軍ニシテ難シク之ヲ拒止スル者アラス只江路ト薩境ノ
 六 才ノ西藏軍及テ兵等ハ何事ヲ為シ得ザルコト
 七 西藏人曰ク此ノ地莫ク積雪減少セザルニ蔵
 八 内ニ不事事元前兆ナリト又曰ク吾カ湖ノ水陸軍皆テ少事
 九 トナリシ國運ニ衰弱ヲ表示スルナリ而テ今ヤ彼等迷
 十 信實際ハ然ラズ也近來ノ上流ヲ取テ以テ之ニ存
 十一 為サレバ邦國ノ世界ニ表面ニ自ラ然ルガ如ク常理ト依テ
 十二 支配セザル一團トナリ今ニ控テ一心不亂ト大業経テ思シ又恐
 十三 敵退散ノ新機ヲ為スル本金銀ノ備極ハ遠シ新機トテ前
 十四 ク控公又整々ト足ラサレ悟ル然レバ世屋ノ此民ノ今日
 十五 知ル事兩備總ヲ計テ為サレモ若シ事急ニ至ル他者
 十六 慮ヲ固ラサレ得ザルコト今國運存亡ニ要ルハ春神原野
 十七 古有シテ英領ト云フ一或ハ平壤城以南ト云フ一放牧事
 十八 今生ズル終機ヲ防止シ通商簡便ヲ計ルノ事ハ其主
 十九 要ナリト云フ人無ク廣野ヲ進行スルカ如ク此形勢ナリト云フ
 二十 要ニ思フ也心ニ名ニ條路ヲ訂結セシムル事得ザルコトハ
 二十一 亦々知ルコトナリ今ニ此ノ西境ハ尙ホ將來地ナリ地上
 二十二 海ヲ長江沿岸ヲ通シ西境ヲ横断シテ亞細亞東
 二十三 南勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十四 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十五 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十六 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十七 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十八 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 二十九 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西
 三十 北勢ヲ經過シ歐州ニ至ル捷徑ナリ鐵道ヲ架設シ西



REEL No. 1-0718

0503

三富庶より高進元老人の在英園人として今日、政務露の西考
ニ指し決然然ハス英國ハ將來トシテ露亦ハ其地ハ吾國
カ以テ出ルル許サレハ軍ヲ修リ以テ印度ヲ安寧シ保障
ニ且南都亞細亞ノ天領上リ得ルニ歩武ヲ進メテ
急務ニ附セシム 西考、政務露の如ク上難を本邦之下密接
關係ヲ結ビ其教育ヲ進メテ之ヲ上級ニ誘導スルハ吾國
至善ノ術也徳ヲ浸地ニ樹立シ將來政治宗教實業
等ノ關係ヲ結着セシムル起因タラズハアラスヤナリ 李奇恩
以上

右奉供御参考候也
明治廿七年二月廿日

成田安輝 謹

外務大臣男爵小村壽太郎殿

大臣 總務長官 政務 通商 人事 會計 取調 文書 電信

Handwritten initials and a large number '3'.

Via North Sent. 24 2 1904 10-5 a.m. East.

Uchida Peking

No. 183

成田 鶴岡ト同伴一昨日
出張上向々往北法赴ケリ
貴電一読小田切
通達

電送第 989 號 Words. 29.

大臣 次官 政務 通商 人事 會計 取調

Handwritten initials and 'Via'.

Date, Peking 23/2/1904. 11.40 a.m.
Received, Tokio 2.45 p.m.

電受第 895 號 Wds. 25/24

小村外務大臣
第九六號
成田安輝此際北清ニ渡航ノ望望アリハ
連ニ北京マテ美ハ探申傳ヘアリヌシ

内田全務外使

